議長・副議長就任記者会見の概要

日　時：令和３年４月15日(木)
　　13時30分～14時08分
場　所：議長応接室

【新議長の就任あいさつ】

（中野議長）

本日議長に就任いたしました、えびの市選出の中野です。よろしくお願いいたします。

議場での挨拶でも言いましたが、コロナ第４波の状況が厳しい中での就任ですので、何と言ってもコロナから回復し、正常な県政に戻るよう、執行部と共に、議会としても一生懸命頑張っていかなければならないと考えております。

【新副議長の就任あいさつ】

（濵砂副議長）

同じく、本日の本会議におきまして、副議長に選任いただきました西都市・西米良村選出の濵砂守でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長をしっかりと補佐し、その職務がスムーズに流れるよう努力するのが私の仕事でございます。

議長からもあったように、喫緊の課題は、コロナ感染症の対策、あわせて経済対策に

なろうかと思いますが、宮崎県が以前から抱えている課題は人口減少対策、あるいは少子高齢化対策であります。消えゆく山村、失われる農村、このようなものをしっかりと見極めながら、中野議長と一緒に、県勢発展のために頑張ってまいりたいと思います。

【質疑応答】

（宮日新聞）

議長にお伺いしたい。先ほど新型コロナウイルスが課題だというお話があったが、コロナ対策について、議会としてどうやって向き合っていくつもりか。また、この１年間を通して見えてきた課題をどうとらえているか。

（中野議長）

宮崎県でも25日間、ずっと感染者ゼロが続いていたのに、私の地元えびの市でも急に感染が発生し、県北ではクラスターも発生しているという状況である。

県北では、ＰＣＲ検査を以前よりもかなり実施しているようだが、そんな状況でも何人か感染者が発生している。今もやってはいると思うが、行政には、検査を徹底し、早く感染者を見つける体制を組んでいってほしい。

それから、ワクチン接種も重要である。コロナを全体的に封じ込めるためには、国民・県民がワクチンを１日でも早く打たなければならない。また、ワクチンの生産を外国に頼っているのが現状だが、今後のコロナがどう発生するかも分からないので、国産ワクチンが製造されるよう、国に対策を打ってもらいたい。

（宮日新聞）

この１年間のコロナ対策の中で、県の対応や経済対策が遅いという話も時にはあったが、どういう形で県民の声を届けるかなど、議会の役割をどういう形で捉えているか。

（中野議長）

県は、基本的には一生懸命やってくれていると思う。

何よりもお金がなくては対応はできない。宮崎県は自主財源が少ないが、国がそれを支援する体制ができてきたので、今後もどんどん、前向きに、早めの対策を行っていただければいいと思う。

１月に宮崎で独自の緊急事態宣言を出したが、非常に効果があったと思う。私の一般質問ではつるべ落としという言葉で表現したが、発生数が急減したのは、緊急事態宣言の結果だと思っている。

（宮日新聞）

今、コロナ以外にも、新田原やえびの駐屯地の訓練等、安全保障面でも、本県が重要な位置づけになりつつある。昨年度、県から国や大臣に要望を行っているが、議会の指摘もあって執行部が動いた部分もあると思う。そういった本県の状況を踏まえて、河野

県政と議会がどう向き合っていくか、議長としての考えを伺いたい。

（中野議長）
　安全保障については日米を基軸にやっていかなければならない問題であると思う。
　ただ、今回の新田原基地の問題は、宮崎県内で訓練をするにも関わらず、その情報がメディアのほうが早く、地方がないがしろにされたということである。今日も、そのことで意見書を可決したが、一番に承知すべき県民が後回しされるということについては、議会も県とともに、政府や関係先にものを申していかなければならないと思う。

（読売新聞）
　県議会で、会派ごとに主義主張が異なる中で、どう議会運営をしていくか。

（中野議長）
　宮崎県にも、自民党をはじめとして会派がいくつかある。主義主張はみんな異なるので、それはそれぞれが主張すればいいが、県政の運営については、政党間の考え方の違い云々ということはないだろうと思う。どの会派も、県勢発展のため、県民のため、という目的は一緒だと思うので、ともに取り組んでいければいいと思う。

（ＮＨＫ）
　議会には若者と女性が少ないと思うが、それについてどう取り組むのか。

（中野議長）
　男女の人口比率はほぼ１対１なので、議会でも同じ比率であってもおかしくないと認識している。私の地元のえびの市議会では、議員15名のうち４名が女性である。県議会では、39名中４名なので、県議会の方が女性比率は少し低い。
　それぞれの選挙区で、県政のために頑張りたいという人がおられれば、どんどん手を挙げていただければと思う。

（ＮＨＫ）
　女性や若者が働きやすい環境整備についてはどう考えるか。

（中野議長）
　整備が必要なことはたくさんあるだろうと思う。県が前向きに取り組むことに対して、議会が足を引っ張るようなことはないと思うので、大いに協力していきたい。

（ＮＨＫ）
　議会として具体的な改善策はあるか。

（中野議長）
　具体的なことは、即座には思い浮かばないが、女性だから云々という必要はなく、自然にそうなっていくのが良いと思っている。

（ＮＨＫ）
　子育てや、キャリアとの両立が難しいという面や、議員活動で夜が遅かったり朝が早いという面もあると思うが。

（中野議長）
　子育てを例にとれば、必ず女性がしなければならないということではないので、男性も子育てをする、ということだろう。子育てができる環境というのは、本人の努力だけではどうにもならない部分もあるので、職場であれば職場のみんなが協力していく、地域社会が協力しなければならないことがあれば、協力していくという社会づくりはしなければならないと思う。

（ＮＨＫ）
　投票率の低下が進んでおり、政治離れなどと言われているが、政治の魅力をどのように高めていくか。

（中野議長）
　離れているのは残念である。この前の福岡県知事選挙も投票率が低かったようで、自分で分析はしていないが、みんなが、せめて選挙ぐらいは投票してほしいなという気持ちで、結果を見ていた。宮崎県の投票率も高い方ではないし、どんどん下がっている。我々も総力を挙げて、少しでも上がるよう、いろんな努力をしていきたいと思っている。

（ＮＨＫ）
　議長は議会をどのように変えていきたいと考えているか。

（中野議長）
　私は強力なリーダーシップを持って引っ張るタイプではないので、副議長と二人で中心となって、みんなで前向きに、いろんなことに取り組んでいきたいと思う。

（夕刊デイリー）
　首長と比較するとどうしても議会の存在感が小さいと感じる。議会としての情報発信についての考え方を伺いたい。

（中野議長）
　知事１人に対して39人も議員がいるが、執行権は知事にあるので、議員・議会が結束

していかないと、難しい面もある。
　我々議員の活動がよく見えないという話も聞く。だが、国政のことは毎日ニュースで流れるが、県政のことはあまり流れない。しかもそのうちの議会というのは、議会が始まったときや、選挙、議長の改選等のときくらいで、日常の活動は出てこない。しかし、議会が県と同じ予算を組んで、毎日発信することもできない。
　そこを担うのが皆さん方マスメディアだと思っている。例えば、毎日、市町村の議員も含めて、議員の活動や調査についてくれば、毎日ニュースがなにがしかあると思う。それをできるのはメディアの方々であり、みなさまに頼るよりほかにないと思っている。
　強いていえば、我々議員の方でも、議会報告書をまめにつくって、有権者である県民に届けていくような努力はしなければならないとは思う。

（宮日新聞）
　前回の選挙では７選挙区で無投票になった。議会への関心の薄れが原因としてあると思うが、内側から議会を活性化するために必要なことや取組は何だと思うか。

（中野議長）
　まず、議会の活性化と無投票の解消とはつながらないと考えている。
　自民党は全ての選挙区で候補者を出しているが、定数が１人の選挙区に自民党から２人の候補を出すわけにもいかない。我々が一生懸命活動していることを、有権者も認めてくれて無投票となっているのかもしれないが、そうならないように、それぞれ主義主張を述べる場、政党もあるので、候補者を出し、堂々と選挙区で戦ってもらえばいいと思う。

（宮日新聞）
　選挙と別で、議会全体の活性化、議会改革といった意味で、目指していることはあるか。

（中野議長）
　今は良い考えが思い浮かばないが、何かしなければならないという気持ちはある。前任者も議会活性化にいろいろと取り組んでいるが、全てができあがったわけではないので、引き継いでやっていく。そのほかにあれば、付け加えて取り組んでいきたい。活性化にあたっては議員一人ひとりが意識を持ってやっていくことが大事だと思う。
　特に宮日新聞さんには、県議会の活動をかなり取り上げてもらっており、ありがたいと思っているが、もっと大々的に取り上げてもらえるといいなと、マスコミの皆さん方にもすがる思いである。よろしくお願いしたい。

（宮日新聞）
　議長は６期目ということだが、これまで力を入れて取り組んできたことについて、議

長という立場でどう具現化していきたいとか、議会としてどう取り組んでいきたいという思いはあるか。

（中野議長）
　先ほど副議長が人口減少問題について言われたが、人口減少は、特に中山間地で激しい。医療と公立高校については、県全域で、選挙区単位で最低一つは守っていかなければ、人口減少に拍車がかかってしまう。公立高校の存続については、今回、基本方針が決まり、県教育委員会にも、何とか高校は守りたいという姿勢が見えてきた。県央から離れた地域では人口も減ってしまうから、公立高校等の機関や組織はなくなってもいい、という姿勢ではだめだという思いで、私としては取り組んできたし、これからも取り組んでいきたい。

（ＮＨＫ）
　副議長に伺いたい。若い人や女性を確保するために、議会としてどのように取り組んでいこうと考えるか。

（濵砂副議長）
　日本では戦後、公職選挙法等が成立するまで、女性の参政権はなかった。それから年を経て、女性の参政権が出てきたのだが、今もまだ田舎のほうでは、女性が選挙や政治に関わることはそう活発ではない。メディアの発達で、若い人たちの中には興味を持たれる方たちもいらっしゃるようだが、そういった面から見ると、時代はずっと変わってきているわけで、県議会として、若い人たちに向けてどんな魅力をつくり上げるべきかというのは、その時々で考えていかないと、今これをやったら人が集まる、という問題ではないんじゃないかなとは思う。
　また、活動の中で、女性にも参画しやすい環境をつくることが大事かなと思うと同時に、議員というのは、４年ごとに審判があるので、議員活動を生活の糧にしようとしても、なかなか飛び込みにくい、というのは現実的にある。さらに年金は、議員年金が廃止になり、国民年金だけになった。国民年金では月に７万円、年間70万円ちょっとぐらいしかもらえない。これで生活できるのか、将来の設計ができるのかというと、どうしても若い人たちには、入り込めない部分があるのではないかと思う。
　だから、議員の将来を見込んで、例えば、国民年金ではなく、社会人から引き続き厚生年金等に加入できるといった、仕組みの改正も必要ではないかと思う。
　まずは、生活できる職業でないとなかなか飛び込みにくいというのが、若い人が入ってこない理由の一つかなとは思う。

（ＮＨＫ）
　女性の働く環境の整備という面ではどうか。

（濵砂副議長）

施設的な面では、その都度変えていくしかないと思う。

現在県議会には４名の女性がいらっしゃるが、どうしても39分の４の分として環境をつくっている。５人になれば、相応の環境整備をすることとなるだろう。

これは、議会だけが特別女性が入りにくいということではなく、子供を産み育てて、社会人として生きていく中では、どこの世界でも同じような条件だろうと思う。セクションごとに、みんなが努力しながら女性を受入れていくことを考えていく必要がある。

（読売新聞）

議長・副議長の任期は本来４年だが、慣例で議長２年、副議長１年とされていることについては、どう考えるか。

（中野議長）

より多くの人が経験でき、いい仕組みだと考えている。

副議長１年というのは短いようにも思うが、将来、議長になった時に、副議長の時の経験が生きる。私も副議長を経験しているが、そのときの経験が参考になっている。

だから、議長２年、副議長１年というのは、先人の知恵だったんだろうと思っており、これを覆すような気持ちはない。